

第 30 回日本 SPF 豚研究会 講演要旨

(於 2022 年 12 月 1 日 KKR ホテル東京 及び Web 配信)

1. 「日本 SPF 豚協会年次報告 令和 3 (2021) 年度」

日本 SPF 豚協会 藤田世秀

令和 4 年 3 月末現在の SPF 豚認定農場数は 183 農場 (内 GGP・GP 農場 18、一貫生産・繁殖専門農場 116、子豚育成専門農場 3、肥育専門農場 46) であった。認定農場数は 4 農場増加した。しかし、飼養母豚数は 77,248 頭と 408 頭 (0.5%) 減少した。

生産成績をみると、一貫生産農場では、1 母豚当り年間肉豚出荷頭数は増加した。農場回転数は改善された。農場飼料要求率は横這いだった。出荷肉豚 1 頭当りの A 分類薬品費は増加した。総合生産指数は横這いだった。繁殖専門農場 (繁殖-II) では、分娩回数は減少した。1 母豚当り年間出荷子豚頭数・年間離乳頭数は横這いだった。出荷子豚 1 頭当り A 分類薬品費は大幅に増加した。総合生産指数は 3.52 ポイント低下した。肥育専門農場 (肥育-II) では、飼料要求率は大幅に悪化した。肉豚出荷率は横這いだった。出荷肉豚 1 頭当り A 分類薬品費は減少した。総合生産指数は 3.32 ポイント低下した。

2. 臨床検査を農場成績改善に生かすために ～検査結果の読みのポイント～

(有) 輝北ファーム (日清丸紅飼料 (株)) 矢原 芳博

今日の養豚農場においては、高性能の種豚を駆使し、その能力を最大限に発揮させて生産コストを極限まで削減する事で、飼料をはじめとした生産資材高騰に対抗しています。そのような状況の中では、疾病による生産性低下は致命傷に成りかねない問題であり、一定のコストを掛けてでも包括的な臨床検査を定期的実施し、疾病予防に役立てることが基本となっています。我々は養豚の臨床検査に 30 年以上携わってきましたが、その間、いくつもの新しい疾病が現れ、それらの疾病の農場での状況を知るための検査方法が多数開発されてきました。これらの検査結果は、定量的な数値や陽性、陰性といった定性値として報告されますが、その結果をどのように解釈し、農場での対策に生かすかについては、必ずしも生産現場に十分周知されているとは言えないと感じます。今回、生産現場で用いられている様々な検査法と、その結果の読み方の注意点や対策への活かし方についてご紹介させていただきたいと思います。

3. SPF 種豚場における豚熱発生事例と農場再建へ向けて

(株) サンエスブリーディング 榎並 紗

2021 年 12 月、宮城県の弊社 GP 農場にて豚熱の発生が確認されました。国内 76 例目、県内 2 例目、種豚場としては全国初の事例です。東日本を中心に肉豚生産用の種豚や人工授精用精液、肥育または実験用としての子豚販売を行っていたことから、農水省の防疫指針に従い、殺処分頭数は当該農場と出荷先 11 県 26 農場で計 8,605 頭に及びました。

会社設立後約 20 年の間に、2011 年の東日本大震災、2019 年の豪雨災害など度重なる天災に見舞われて来ましたが、幸いにも家畜への直接的被害や、何より社員やその家族への人的被害が無かったことにより、時間はかかりましたがそのたびに復興をして参りました。住商飼料畜産時代に PED 侵入によるオールアウトを経験している従業員も多く残っており、防疫に対しては細心の注意を払って来ましたが、今回の件によりまだ足りないこと、まだ出来ることがあるということを感じました。

6 月より繁殖候補豚の導入が始まりました。豚熱をはじめとした疾病のモニタリング方法や防疫管理、設備改修等農場全体をソフト・ハード両面から見直し、再建を目指していく所存です。